年　月　日／　学校　年　組　番　なまえ

2024年12月4日付（共同通信社配信）

# 核実験被害も目向けて

## 「ビキニ事件」から70年

## マーシャル諸島 被団協結成契機、影響今も

ノーベル平和賞に選ばれた日本原水爆被害者団体協議会（被団協）結成の背景には、1954年に太平洋マーシャル諸島で水爆実験が行われ、日本漁船も被ばくした「ビキニ事件」があった。10年以上続いた核実験で、島民らは被ばくによる健康被害や移住を強いられ、影響は今も続く。現地に半世紀通う報道写真家の島田興生さん（85）＝神奈川県葉山町＝は、授賞を機に「世界の核実験被害にも目を向けてほしい」と願う。

54年3月1日、米国がマーシャル諸島ビキニ環礁で水爆「ブラボー」の実験を行い、周辺島民や静岡県の漁船「第五福竜丸」の乗組員らが被ばくした。これをきっかけに反核運動が活発化し、56年に被団協が生まれた。

島田さんが知人のジャーナリストと共に初めて現地を訪れたのは74年夏。約2カ月間かけ、ビキニ環礁や放射性降下物「死の灰」が降ったロンゲラップ環礁などで、健康状態を尋ね回った。

「死の灰」を浴びた60代の男性はがんに侵され、骨が浮き出るほど痩せ衰えていた。声を発することもできず「のどかな風景の中に、核実験の生き証人のように伏せっていた」。3日後、妻と娘2人を残し亡くなった。

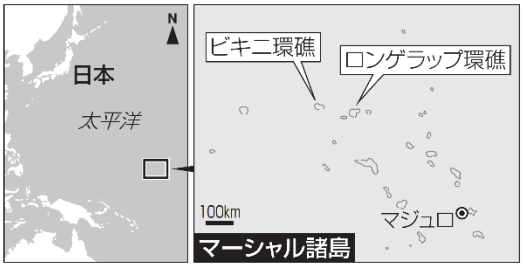
大国に人生を狂わされた人々の行く末を見届けようと、その後も継続して渡航。85年から約6年間は首都マジュロに住みながら関係を深めた。毎年のように死者が出る状況に耐えかね、ロンゲラップ島民が家財ごと無人島へと集団移住する瞬間にも立ち会った。

ノート約300冊に及ぶ取材で得たのは「核は長期に影響を残す残酷な兵器だ」という確信だ。ロシアのウクライナ侵攻などを背景に核使用のリスクが高まっているとして「脅威の記憶が薄れているのではないか」と危ぶむ。

マーシャルの島民代表が日本での反核集会に招かれてきた歴史もある。「被害を広島、長崎に閉じ込めず、世界的なものに広げる努力が必要だ」。今後の核廃絶運動に期待を込めた。

報道写真家の島田興生さん

ロンゲラップ島民が集団移住したメジャト島。無人島だったが、島民の努力で緑豊かな島に生まれ変わった＝2010年（島田興生さん撮影）




**【問1】 日本原水爆被害者団体協議会（被団協）が結成されるきっかけとなった出来事は？**

第5福竜丸などが被ばくした「ビキニ事件」

**【問2】 被ばくしたロンゲラップ島民の集団移住先は、どこ？**

無人島だったメジャト島

**【問3】 報道写真家の島田さんは「核兵器」について、どう考えている？**

「核は長期に影響を残す残酷な兵器だ」

読（よ）めない文字は、かぞくや、ともだちにきいてみてね

©茨城新聞社　教育目的以外の無断転載、複製および頒布は禁止します。